

黄山 の旅

黄山 ツアー ガイド

黄山市冠江南国際旅行社

HUANGSHAN GLOW INTERNATIONAL TRAVEL SERVICE CO.,LTD

安徽省黄山市屯溪区屯光大道2番天盈财富広場B棟1002号室

Tel:0086 (0) 559 2322225/2322332

E-mail: bahu0917@outlook.com



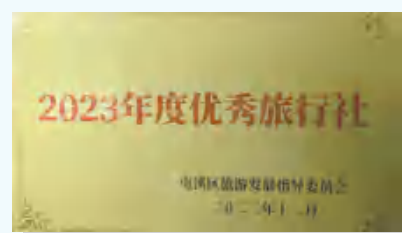
黃山 旅行案内

黃山 冠江南 國際旅行社有限公司

CATALOGUE

- 02/ 旅行会社紹介
- 03/ 李白の唐诗
- 05/ 黄山エリアマップ
- 07/ 古徽州位置図
- 08/ 古代徽州地域の観光地図
- 09/ 黄山風景区地図
- 11/ 天下第一の名山
- 13/ 中国水墨画の源流
- 15/ 古代徽州文化ツアー黟县宏村.西递村.碧山村
- 18/ 古代徽州文化ツアー歙县徽州府.婺源
- 20/ 古代徽州文化ツアー屯溪区と休寧県
- 23/ 名物特産と民俗文化
- 29/ 周辺都市九华山.宣城
- 31/ 周辺都市景德镇.三清山
- 33/ 周辺都市杭州
- 35/ 旅行プランサンプル
- 37/ おすすめホテル集合
- 39/ 旅行会社.観光車両設備とツアーガイドチーム

黄山冠江南国旅は2010年に設立され、外国人観光、国内団体旅行、カスタマイズ旅行、会議接待、修学旅行を主要業務としています。当社は経験豊富なオペレーションスタッフを擁し、多様なお客様のニーズや后勤サポートに対応しています。また、経験豊富な日本語ガイドが多数在籍しており、多くのお客様から高い評価をいただいています。近年では、安徽省「十佳入境接待社(トップ10入境旅行会社)」に複数回選ばれるなど、その実績が認められています。従来の観光ルートに加え、さまざまなテーマや文化を特色とした旅行、写真撮影、スポーツ、ビジネス旅行などの新たなプランを開発し、幅広いお客様から好評をいただいています。



黄山はその高さ四千仞。

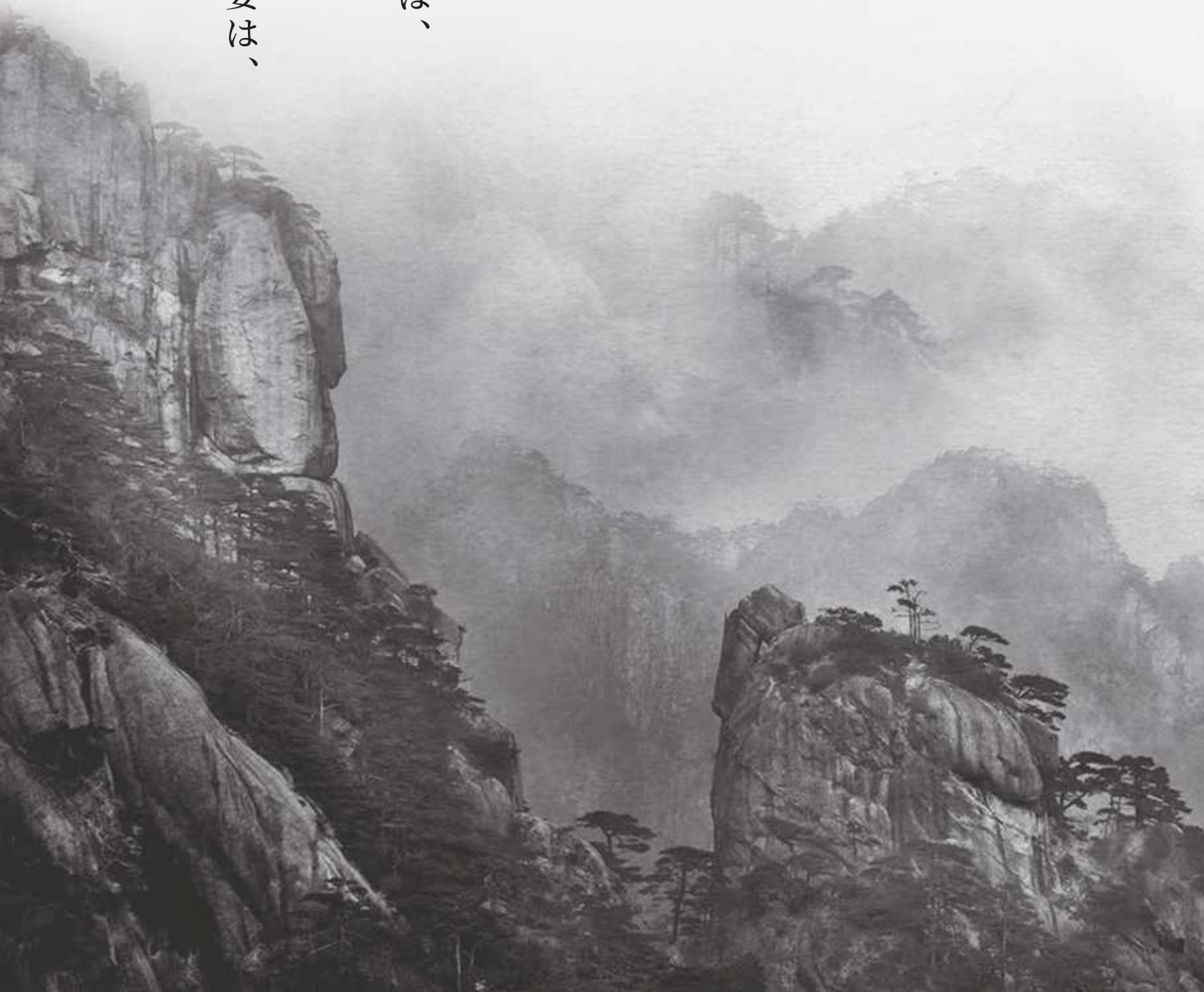
三十二の蓮華峰が並び立ち、

朝日に赤く染まる切り立った崖は、

花崗岩の石柱をまじえ、

開きかけた蓮の蕾のようなその姿は、

輝くばかり美しい女を思わせる。





仙境の謎のような 立体山水画の世界

「温処士の黄山白鵝峰の旧居に帰るを送る」

黄山四千仞

李白

三十二蓮峰

丹崖石柱を夾え

菡萏金芙蓉



合肥



武汉



九华山



黄山



杭州



江西



厦门





上海



日本

エリアマップ

黄山は中国安徽省南部に位置し、その美しい自然景観と豊かな文化遺産で世界的に知られています。黄山の周辺には、杭州、上海、南京などの大都市があり、これらの都市から黄山へは便利な交通手段が整備されています。特に、新幹線（高速鉄道）を利用すると、上海から黄山まで約2時間半、杭州からは約1時間半で到着できます。また、日本からのアクセスも便利で、東京、大阪、名古屋などの主要都市から直行便が運航されています。黄山周辺には、世界遺産に登録されている「黄山風景区」をはじめ、古村落の「宏村」や「西遞」、仏教聖地の「九華山」など、多くの有名観光地があります。これらの景勝地は、黄山の雄大な自然と調和し、訪れる人々に深い感動を与えます。黄山への旅は、自然と文化の融合を体感できる素晴らしい体験となることでしょう。

古徽州位置図



古徽州文化地域は、清代中期の「一府六県」が管轄していた地域で、現在の安徽省南部の宣城地区、黄山地区、および江西省北部の婺源県に相当します。徽州文化と相互に影響を与えた都市には、浙江省の杭州、江蘇

省の揚州、湖北省の武漢、江西省などがあります。当時、徽州文化は思想的にも経済的にも中国において独占的な地位を占めており、それが現在の古徽州文化地域の形成につながりました。



この地域には、ユニークで幻想的な世界遺産である黄山(世界文化・自然遺産)だけでなく、古徽州の長い歴史と人文的な世界遺産も共存し、中国でも非常に豊かで多彩な観光地域を形成しています。中国華東地区に位置し、新幹

線、飛行機、道路網が発達しており、日本の主要都市からのアクセスも便利です。周辺の都市はそれぞれ長い歴史を持ち、独自の特色を備えているため、さまざまなテーマの旅行プランを組み立てることが可能です。

古代徽州地域の観光地図 一府六県



黄山風景区地図

黄山とは、歙県・黟県・休寧県、黄山区・徽州区の3県2区にまたがる南北40に、東西30m、総面積1200mに及ぶ山岳地帯の総称。なかでも154mに展開される景観は、万里の長城、桂林山水、北京故宮などとともに、中国十大風景名勝区に選定されている。また、1990年、中国文化に与えた多大な影響が評価され、自然とあわせて、ユネスコ世界複合遺産に登録された。

黄山は「仙境」と呼ばれ、その理由は変化に富んだ自然風景にあります。松、岩、雲が一体となった風景は、

東洋の審美観の最高峰とされています。ここ数十年、黄山は世界中から多くの観光客を引き寄せてきました。

黄山風景区は、北海、西海、西海大峡谷、天海、光明頂、玉屏といった主要なエリアに分かれています。遊歩道は整備され、安全で清潔であり、サービス施設も充実しています。また、前山、後山、西海大峡谷には合計4つのロープウェイが建設されており、登山口には景区内のシャトルバスが運行され、観光客がスムーズに移動できるようになっています。



黄山 見どころMAP



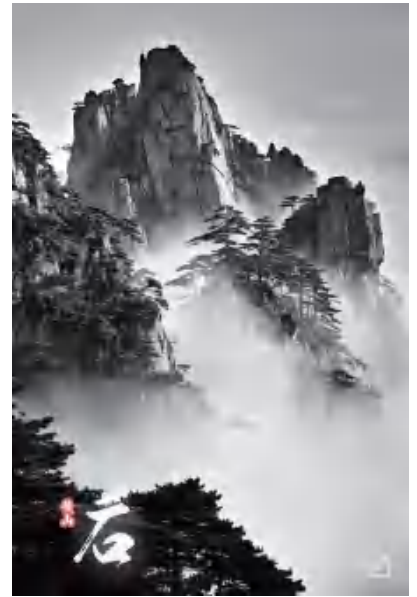
天下第一の名山



黄山の最大の特徴は、奇妙な形をした松・岩石と、たなびく雲海。この奇松・怪石・雲海を「三奇」といい、冬雪を加えて「黄山四絶」（黄山の4つの絶品）とたたえられている。

黄山は、四季によってもさまざまな色彩を帯びる。春は山の斜面を花がおおい、華やがさに包まれる。夏は青々とした峰が連綿とつながり、秋は燃えるような紅葉が山を赤と





紫に染め上げる。冬は一変して氷と霧の世界に。黄山は、千変万化の奇山といえよう
年間200日以上は雲や霧におおわれ、

雨もよく降る黄山だが、夏は雲海が太陽光線を遮り、暑さが長くつづかないため、避暑の名所ともなっている。



黄 海 松 石 图



芸術への影響

「天下の名勝、黄山に集まる」と言われ、古代から中国の人々が黄山の美しさを「天下第一」と称えている。幾多のスポットには、その独特の発想で名前が付けられた。この名声に憧れて多数の文人が訪れ、水墨画、漢詩（李白）などの題材となった。東山魁夷は、黄山を「充実した無の世界。あらゆる山水画の技法が、そこから生まれたことが分かる」と評している。

その独特な景観は水墨画のインスピレーションの源として古くから知られています。黄山の奇岩

文人墨客を魅了しつづけた 中国水墨画の源流

や岩の上に生える松の木は、水墨画の主要なモチーフとして頻繁に描かれています。黄山は仙人や修行者の聖地とされ、水墨画を通じてその神秘的な雰囲気が伝えられています。黄山の風景は、水墨画の表現技法や東洋の審美観と深く結びついており、自然と芸術の調和を体現する象徴的な存在です。その美しさは、時代を超えて人々を魅了し続けています。



▲「風景は心の救いである。」

日本画家东山魁夷

名づけ親は玄宗皇帝

黄山には、中国古代の伝説上の帝王である黄帝が、不老不死の霊薬をつくって服用したところ、仙人になったという言い伝えがある。黄帝は伝説上の人物だが、医学や科学をはじめ、中国民族の始祖とする神話が多数残されている帝王である。

秦代（前221～前207）のころより、森が鬱蒼として岩が黒々としているため「黟山」（「黟」は黒の意）とよばれていた黄山だが、これを耳にした唐の玄宗皇帝が、747年、黄帝の名にちなんで「黄山」に改名させたという。この9年後、賢帝と敬われながら楊貴妃に溺れた玄宗は、長安の都を追われた。

古代徽州文化ツアー

西递村と宏村



山あいの地で外部との接触が少なかったことが
幸いし、往時のたたずまいをほぼ完全な形で残した
両村は、2000年、世界文化遺産に登録された。

徽州文化を旅する

古くは、徽州とよばれた安徽省南部。
2000年の歴史を有し、古来より、多くの人材を世に送り出してきた。彼らによって花開いた文化は、徽州文化と称され、世界遺産の西递村と宏村に代表される徽派建築をはじめとして、絵画、彫刻、版画、演劇、医学、理学、料理など、さまざまな分野にわたっている。

西遞村は黄山市黟県東南の山ふところにある「船形」を呈した小村。唐代(618~907)末、皇帝の子孫が難を避けるため、胡姓に改めて、隠れ住んだ里とも伝えられる。胡氏一族の家廟である「敬愛堂」や「追慕堂」、高

級官僚の邸宅とそれに付属した庭園「膺福堂」「履福堂」「西園」「桃李園」など、歴史的遺構が多い。これら古色然とした家並みを縫うように溪流が流れ、西通村は自然と文化が調和した美しい景観を醸しだしている。



西遞村

徽州とは、現在の安徽省南部に位置する歙県、休寧県、祁門県、黟県、績溪県の古称で、古くから文化の気風が高く、優れた人物を輩出してきた地として知られる。

南宋の朱熹(1130~1200)もそのひとり。中国伝統の儒教に仏教や道教の理論を取り入れた朱子学は、科学の科目にも採用された。日本にも、鎌倉時代に禅宗とともに伝来し、江戸初期に林羅山が徳川幕府に登用され、それ以降、幕府から官学として保護された。

そのほか、画家、教育者、哲学者、文学者、技術者など、徽州出身の進村は枚挙にいとまがない。

彼らによって育まれた徽州文化は、チベット文化や敦煌文化などとともに中国の地域文

化の一翼を担ってきたが、その発展に寄与したのが、徽州内に遍在した書院(教育の場)と徽商(徽州商人)である。

徽商は、新安(徽州の古称)商人ともいわれ、徽州出身の商人の総称。明代中葉以後、塩の専売で巨万の富を得、繁栄を極めた。徽商の経済力を背景に、徽州文化は花開いたといっても過言ではない。

徽州文化は、新安理学をはじめ、新安医学、新安画派、徽劇、徽菜(徽州料理)、徽派彫刻、徽派建築などの名で知られ、そのジャンルは多岐にわたっている。

なかでも徽派建築は、世界遺産に登録された西通村と宏村など、明清時代の村落と民家が色あせずに残されており、歴史的にも価値が高い。



宏村

宏村は、同じ黔県の北に位置する「牛」の形をした村。明代につくられた、牛の胃腸に見立てた水利システムがユニークだ。月沼や南湖(胃袋)を整備し、蛇行する用水路(腸)を通して、溪流や地下水を村内に循環させている。

建築の圧巻は、清代の塩商人汪定貴が1855年ころに建てた広大な邸宅「承志堂」。梁、窓、戸口など、いたるところに吉祥文や『三国志』の場面などが彫り込まれ、さながら徽派彫刻の一大絵巻を呈する。

碧山村は、黔県に位置する古き良き田舎の風情を残す村です。この村は、伝統的な徽派建築が数多く保存されており、石畳の路地や古い門構えが訪れる人々を昔の時代へと誘います。碧山村は、自然の美しさと文化遺産が融合した場所として知られ、静寂の中に歴史の息吹を感じることができる隠れ里です。近年では、その独特な文化的景観と落ち着いた雰囲気から、芸術家や文化人にも注目されるようになりました。

碧山村



古代徽州文化ツアー

歙县徽州府・婺源



八角牌坊

歙県

歙県(きゅうけん)は中国安徽省黄山市に位置し、徽州文化の発祥地として知られる歴史と自然が調和した古い町です。徽州古城では明代の城壁や門楼が残り、徽州文化博物館で地元の歴史を学べます。漁梁バスタは古代の水利施設で、新安江の美しい景色が広がり、棠樾牌坊群では7つの石造りの牌坊が儒教文化を象徴しています。雄村は教育と文化の村として有名で、徽派建築の白い壁と黒い瓦が特徴的な家屋や、臭いマ

ンダリン魚や毛豆腐などの徽菜も楽しめます。黄山市から車で約1時間とアクセスも良く、歴史散策やボートツアー、地元グルメを味わうのに最適な場所です。

八角牌坊は、歙県にある歴史的な石造りのアーチ門で、その精巧な彫刻と独特の八角形の構造が特徴です。明代に建てられたこの牌坊は、地元の文化と伝統を象徴し、訪れる人々に古代中国の建築美と歴史の深さを伝えています。



婺源

婺源の菜の花畑は、春の訪れとともに広大な大地を鮮やかな黄色で染め上げる絶景です。丘や谷間、古い村落の周りに広がる菜の花畑は、まるで絵画のような美しさで、訪れる人々を魅了します。特に朝もやの中や夕暮れ時の光景は幻想的で、伝統的な徽派建築の白壁と青瓦が菜の花の黄色と調和し、独特の風景を作り出しています。この時期の婺源は、自然と歴史が融合した特別な場所として、多くの写真愛好家や旅行者にとって憧れの地となっています。



古代徽州文化ツアー

屯溪区と休寧県

屯溪区

屯溪の町は、船着場を中心にし発展を遂げたのだが、その姿を現在に留めるのが老街。

新安江・率水・横江の三つの川が合流するという交通の便を生かし、物流の集積地として古くから栄えていた。

宋代に全国を股にかける商人が現れ、明代からは、塩・米・材木・墨・お茶・陶器などを扱い、富を築いていった。この地域を中心に活躍した商人は、この地が晋から唐の時代にかけて新安といわれていたことから、新安商人と呼ばれた。

もとは「八家棧」と呼ばれる小さな集落だったが、新安商人の活躍に伴



い、清の康熙年間（一七世紀中期～一八世紀初頭）には「鎮長四里」（一里は約六五〇メートル）といわれるほどの大きさになった。一九二〇、三〇年代には「上海や杭州などの商業都市に匹敵する」とまでいわれた。

当時、町には安徽省南部の特産品である、微墨、歙硯、祁門紅茶、黄山毛峰茶、さらに景德鎮から選ばれた磁器などが店先に所狭しと並べられていたはずだ。現在の老街は東西およそ一・五キロ。道幅六～七メートルの石畳で、その両側には、二階建ての商店が並んでいる。建物はレンガと木を組み合わせた造りで、ぱとうしょう「馬頭牆」と呼ばれる白色の壁や黒瓦を葺いた屋根など、安徽省南部に伝わる建築様式の特徴を備えている。老街には現在でも数十もの老舗の商店や食堂（中国語で「老字号」という）が残っているが、なかでも「同徳仁」という漢方薬店は清の同治二年（一八六三年）の創業で、一四〇年＝近い歴史を持っている。



屯溪河街夜景



屯溪黎阳老街

近年、古い街並みの近くや新安江の川辺に、河街や黎陽老街といった新しい街区が建設され、レストランやバー、アミューズメント施設などが立ち並んでいます。これにより、観光客にとっても人気のあるスポットとなっています。



休寧県

齊雲山は黄山市休寧県に位置し、黄山市から休寧行きバスで「齊雲山入口」下車(約40分)。中国四大道教名山の一つとして知られています。ロープウェイまたはハイキングで山頂へ香炉峰(こうろほう)、象鼻岩(ぞうびがん)など、ユニークな形の岩が点在します。唐代から道教の聖地として発展し、太素宮(たいそきゅう)や玉虚宮(ぎょくきょきゅう)などの歴史的な道教建築が残されています。歴代の文人や書家が残した石刻が多く、「天開神秀(てんかいしんしゅう)」などの名作が見られます。山麓には伝統的な建築様式を保つ古い村が存在し、昔ながらの風景が広がります。



名物特産と民俗文化

徽州の文房四宝

徽州の文房四宝は、中国の伝統的な書画芸術において欠かせない道具であり、筆、墨、紙、硯を指します。特に、徽州はこれらの高品質な文具の産地として有名です。紙については「宣紙」が代表的で、その中でも「紅星宣紙」は最高級品として知られています。宣紙はその滑らかな質感と耐久性で、書家や画家から高く評価されています。硯は「歙硯」が特に有名で、その石材は緻密で堅く、彫刻が精巧です。硯の表面は滑らかで、墨を磨る際に最適な摩擦を提供し、墨の粒子を細かく均一にすることができます。歙硯は歙溪の産とされる中国四大名硯のひとつ。墨については「胡開文徽墨」が代表的です。胡開文は清代に創業した老舗で、その墨は色合いが深く、香りが高く、書画作



三丈三巨宣撈紙照片



歙硯



胡開文墨厂

品に深みと風格を与えます。これらの文房四宝は、徽州の伝統工芸の粋を集めたもので、中国の文化遺産として今も大切にされています。徽州四雕も名高い。これは博彫、石彫、木彫、竹彫の4種の民間工芸のことで、宋代から始まったとされる。多くは建築装飾や家具などの装飾に使われるが、竹彫には徽州の文人趣味にあふれる筆立てのような小物もある。

中国の伝統劇といえば京劇だが、その前身ともいえるのが徽州の徽劇。いまでも黄山市の劇団では、徽劇のレパートリーを保持している。安徽地方戏曲の黄梅戲は、中国全国で主要な戏曲の一つです。このほか、徽州茶道も名高く、黄山市では観光客も実演が楽しめる。



黄梅戲

中国の伝統劇といえば京劇だが、その前身ともいえるのが徽州の徽劇。いまでも黄山市の劇団では、徽劇のレパートリーを保持している。安徽地方戏曲の黄梅戲は、中国全国で主要な戏曲の一つです。このほか、徽州茶道も名高く、黄山市では観光客も実演が楽しめる。

安徽再芬黄梅文化艺术股份有限公司《女驸马》

屯溪緑茶

屯溪緑茶(Tunlu Green Tea)も中国十大名茶の一つに数えられ、全国的に有名です。清代中期には、祁門紅茶と共に、シルクロードを通じてヨーロッパに輸出され、その品質の高さから国際的な評価を得ました。屯溪緑茶は、その清新な香りと爽やかな味わいが特徴で、徽州地域の豊かな自然環

境が育んだ茶葉を使用しています。茶葉の形が美しく、湯を注ぐと緑が鮮やかに広がる様子は、見る者を楽しませます。このように、屯溪緑茶は中国の茶文化において重要な位置を占めており、国内外の茶愛好者に愛されています。



名物特産と民俗文化

祁門紅茶



祁門紅茶(Keemun Black Tea)は、中国安徽省祁門県を原産地とする高級紅茶で、その芳醇な香りと深みのある味わいから「紅茶の貴公子」と称されています。世界三大紅茶の一つにも数えられ、特にイギリスで人気が高いです。



徽菜

徽菜は、安徽省(あんきしょう)の伝統料理で、「中国八大料理」の一つ。安徽省南部の山岳地帯で発展した保存食文化と徽商の交易活動が結びつき、発酵や燻製による独特の味わいと薬膳の知恵、芸術的な盛り付けが特徴の伝統料理です。油濃く・色鮮やか・火加減重視が特徴です。



代表料理臭いマンドリン魚(しゅうきぎょ)淡水魚(マンドリンフィッシュ)を発酵させた独特の香りが魅力。皮はパリッと、身は柔らかく、辛味と発酵の風味が絶妙。「臭いが強ければ強いほど美味」と言われる、挑戦的な一品。

毛豆腐(もうどうふ)表面に白いカビを生やした発酵豆腐。焼くか揚げて、唐辛子ソースで食べる。外はカリッ、中はクリーミー。カビの成長を見極める職人技が光る、徽州の知恵の結晶。



一品鍋(いっぴんなべ)鶏肉、豚肉、野菜、豆腐などを層状に重ね、土鍋でじっくり煮込む。「山のごちそう」と呼ばれる豪華鍋。

刀板香(とうばんこう)塩漬け豚バラ肉を竹の板で蒸し、脂がほどよく抜けた逸品。塩味と燻製香が食欲をそそる。



名物特産と民俗文化

徽州の魚灯



徽州の魚灯は、中国の春節（旧正月）の祝祭において重要なシンボルの一つです。魚は中国語で「余」と同じ発音であることから、豊かさと余剰を象徴し、新年の幸運と繁栄を祈願するために用いられます。魚灯は、色とりどりの紙や布で作られた魚の形をしたランタンで、夜になると中に灯りが灯され、幻想的な光景を作り出します。これらのランタン

は、通りや広場、家の前に飾られ、春節の祝祭ムードを一層盛り上げます。特に、水郷の町や村では、魚灯を川や湖に浮かべる「放魚灯」の風習があり、水面に揺れる灯りは、訪れる人々に平和と幸福をもたらすと信じられています。春節の魚灯は、家族の団欒と新年の希望を象徴する、美しくも心温まる伝統です。